

乙訓平和委員会ニュース

発行年月日 2024年2月15日 No.470 発行・乙訓平和委員会 編集責任者・米重節男
電話・FAX 075-932-3546 MAIL heiwaotokuni@gmail.com

「政治家の仕事は金集めでなく、市民の声を集めること」

^{かね}**「金に色はついていなかもしか、紐はついている」**

京都市長選挙で心に残った「メイゲン」

2月4日投開票の京都市長選挙は、新人対決の中で、元参議院議員の松井氏が当選して、新市長が決まりました。平和委員会が支援した福山和人氏は、大健闘したものの勝つことができませんでした。今回の選挙は、現職が引退して新人候補による選挙戦でした。有力4候補者は、いずれも選挙を経験している知名度のある候補者ばかりでした。折からの自民党の裏金問題は、京都市長選にも大きく影響しました。4候補のうち、維新の推薦を受けていた村山候補は、自身の政治資金パーティが、報告通りに開かれたのか疑わしいとの調査報道があり、立候補直前に推薦をしていた3政党が推薦を取り消すという前代未聞の事態となりました。

彼はKBS京都放送テレビの候補者討論会で問われて、「**そのこと（政治資金疑惑）については答えたくない**」とメイゲン返答でした。

福山和人氏は数々の名言で、人々の心をとらえました。政治資金問題にからんで、「**お金に色はついていないという人もあるが、少なくとも紐はついている**」と喝破。さらに「**政治家の仕事は金集めでなく、市民の声を集めること**」と訴えて、聴衆は拍手喝采。

かつて蜷川虎三京都府知事は「15の春は泣かさない」「とる漁業から育てる漁業へ」「**憲法を暮しの中に生かそう**」などの名言を残しました。地方自治体の長は国の言うままではなく、その自治体独自の施策実現に力を注いでほしいものです。今の日本国憲法は、国と地方自治体の関係は、上下関係でなく、対等であるとしています。

戦後の地方自治体の首長には、京都に限らず政治的立ち位置は異なっても、住民生活を考えて動いている人も多くあります。新京都市長の姿勢が問われます。

(2面に別記事)

2024年3.1ピキニテ-日本原水協全国集会 乙訓視聴会を開きます

乙訓平和委員会は2月29日(木)全体集會にオンライン参加します。乙訓視聴会場を下記のように設けます。参加希望の方は米重まで連絡ください。

日時：2024年2月29日(木) 13時～15時(開場は12時45分)

場所：乙訓地労協事務所1階会議室

全体集會の主な内容：基調報告、海外代表の発言、核兵器禁止条約への日本の参加めざして一草の根の世論と運動など

「身体を温める考え方と易について」

昨日ラジオ（ABC）で、国際薬膳学院（大阪市北区）の方がゲストで話されていました。温、冷、平という言葉が出てきていました。小松菜は温、ほうれん草は冷、主食は平らにしてあると。身体を「温める」「冷やす」、そして「平」はちょうど真ん中のあたりの「中庸」という意味です。その先生は、朝は紅茶（陽）にアーモンドミルク（咳を鎮めたり、秋に良い）とシナモン（陽）を入れて飲まれているそうです。私の朝は、温かいコーヒー（陰）に牛乳（陰）です。ひと工夫が要りそうです。

49 回目のエッセイで書きましたように、私は先日に、若杉友子さんの本『体温を上げる料理教室』（致知出版社）を初めて読み、若杉さんの3冊目の本に入っています。いま影響をされて食べ合わせで、身体を温める・冷やすを考えるようになりました。面白いです。

詳しく読んでいくと、この考え方は、中国の易という考え方からきているようです。この易経という考えは、3000年前の中国で成立し、儒教の基礎的な経典である四書五経の一つです。しかし、日本ではこの易経からくる陰陽道は、明治3年（1870年）に政府から法律で禁止をされました。多くの道を経て、若杉さんの本で私の知るところになりました。

科学（デジタル）全盛の世の中で、こうした緩やかな易の世界は、不思議です。中国がまもなく GDP において、アメリカを抜くのではと言われる世の中で、必要に迫られて中国語を学ぶ人が

増えていると聞きます。

私は言葉だけでなく、中国という国の理解のために、四書五経を学ぶのもありだと思うのです。私の学校の中学生たちも国語の時間に、いま論語を学んでいます。

新聞には毎日、占いが載っています。昨日の京都新聞にあった易八大のきょうの運勢（日本断易学会）では、私は吉数3（10段階で）、吉色は朱でした。正月に長岡天満宮で引いたおみくじは末吉でした。スピリチュアルの方向に行くのは厳しい（気が進まない）ですが、こうした毎日の生活に潤いを与えてくれるくらいの陰陽はいいかなと思います。（24.02.02・文とカット）

